

水損《視聴覚メディア》の 応急処置

Film Preservation Society

はじめに

映画フィルムも磁気テープも耐水性が低く、損壊物なども含むような泥水からは深刻な被害を受けるものです。被害の受け方も、さらなる悪化を防ぐ方法も、メディアの種類によって若干異なりますが、何れにしても〈迅速に〉しかるべき処置を施せば被害の進行は抑制できます。だからといってコレクションの救出を試みて、あなたの身が危険にさらされるようなことがあってはなりません。洪水や津波の直後は予測できない二次災害が起こり得ます。そればかりか、水損メディアには生物学的／化学的に危険な物質が含まれることも考えられますので、衛生面にも十分注意してください。

オーストラリア国立フィルム&サウンドアーカイブ（NFSA）は、こうしたメディアの被害を悪化させないために有用な情報を提供し、皆さまのかけがえのないメディアを蘇らせるお手伝いをさせていただきます。

ここに書かれていること以上の作業については、専門家の助言なしには困難です。視聴覚メディアはとても脆弱で、扱いを誤ると、そのすべてが台無しになってもおかしくありません。ほとんどの損失は〈水害の後で起こっている〉ことを忘れないでください。つまり、応急処置を施し、専門家の助言を仰ぐことこそが、あなたの貴重なメディアを守り、蘇らせるために、最も確実な方法なのです。

Step 1. そのメディアは海水／汚水／泥水に直接触れたでしょうか？

まず、そのメディアが本当に水に濡れているか／濡れていたかどうかを確かめます。なぜなら、フィルム缶やカセットテープのケースなどが防水の役目を果たすことがあるからです。もし濡れていないなら心配ありませんが、湿気によってカビなどが発生しやすいので注意しましょう。

Step 2. 箱書きやラベルなどはありますか？

次に、そのメディア固有の情報があるかどうかを調べて、記録を残します。メディア自体、あるいはその容器に記載された情報は、消えていたり読みづらくなっていたりすることも考えられますが、どんな些細な情報でも記録を残しましょう。内容不明のオーファンCDなどには、何らかの番号や名称を与える必要があります。



オーファンCD（内容不明のCD）に紐で名札を取り付ける ▲

Step 3. 選別方法は？

救済段階のどこかで、メディアに優先順位を付ける必要が生じるはずですが、とはいえ、中身がわからないのに特定のテープやフィルムを取捨選択するのは至難の業でしょう。そこで、ここでは視聴覚メディアを救済し、その状態の悪化を抑えるためにできることを、ごく簡単に説明します。ただしこの作業は〈コンザベーション〉と呼べるレベルにはありません。メディアを再生するなら、事前にもっと詳しく調べるか、可能な限り経験豊かな専門家に作業を委ねてください。

▼ バクテリアの被害を受けたフィルム



〔フィルム〕

水損フィルムは可能な限り清潔な水ですすいで、泥などの付着物を落とします。何らかの識別システムを構築するため、フィルム1本ごとに固有の名称を与えます（例えば既に付いている題名を使うこともあれば、内容によって仮称を与えても良いでしょう）。

〈冷凍庫〉が使用できる環境にあれば、フィルムをフリーザーバックなどに入れて密閉し、袋にラベルを付けて冷凍します。

冷凍庫がなければ、フィルムをバケツの冷水に浸し、毎日その水を取り替えてください。これによってフィルムはおよそ2週間保ちますが、それ以上経つとバクテリア被害の可能性が高まります。

▼ 蜘蛛の巣や泥などが付着したフィルム

さらなる損傷を回避するため、見た目の状態が悪くないからといって水損フィルムの巻きを解かないでください。くっついてあるフィルムを無理に引き出すと、取り返しのつかない損傷になりかねません。専門家の助言なしにフィルムを乾かそうとするのも危険です。

水損フィルムの生物学的な被害の内、最も深刻な要因が〈カビとバクテリア〉です。カビもバクテリアもあつという間にフィルムをだめにしてしまうだけの威力を持ち、人体にも悪影響を与えることがあります。もしフィルムがカビに覆われているようなら、何があっても素手で触れることのないように、また、カビの胞子を吸い込まないように注意してください。



[磁気テープ] (VHSのビデオテープ、カセットテープ、オープンリールなど)

▼ カビの生えたVHSテープ

磁気テープにはカビが発生しやすいので、扱うときには人体への影響に留意してください。しかし、何より深刻な問題を起こすのは〈バインダー〉と呼ばれる部分の劣化です。

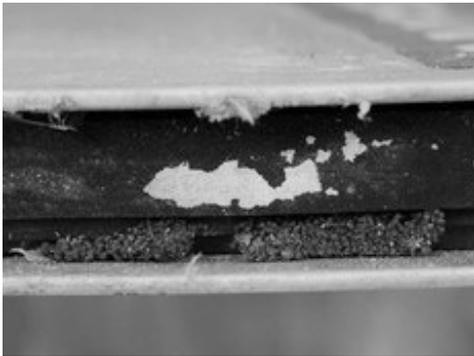
MiniDVは様々な素材から成り、その何れもが水に弱いため、水損MiniDVの回復率はあまり高くありません。したがって、ある程度の損失は覚悟してください。水損磁気テープは、出来る限りきれいな水ですすぎます。このとき、可能であれば水道水は使わず、ペットボトルの水か蒸留水を用意してください。水道水の〈



塩素〉はテープに悪影響を及ぼすことがあります。ラベルが剥がれかけたり、完全に剥がれたりすることもありますので、ラベルとテープ本体がばらばらにならないようにします。固有の識別情報がなく、再生してコンテンツを知ることもままならない場合は、識別可能な仮称や番号を与えます。さらなる損傷を回避するため、テープは冷暗所に保管します。ただし、冷凍はしないでください。

無理に乾かすのは逆効果です。可能であればテープが乾ききる前に専門家の元に届けてください。

「大丈夫かどうか確かめたい」からといってテープを再生すると、テープが傷つくばかりか、再生機まで故障してしまう危険があります。



◀ 泥の付着したオープンリール

[ディスク] (LPレコード、光学ディスク類=レーザーディスク、CD、DVD、ブルーレイなど)

ディスク類は水の被害だけでなくだめになることはありませんが、光学ディスクは長く放置すると悪影響を受けます。カビが生えることもありますが、それはディスク自体というより、むしろライナーノートやジャケットなどが受ける被害です。カビに覆

われていたら、素手での接触を避け、胞子を吸い込まないように注意を怠らないでください。

ホームムービーを記録したDVDなどのディスクにはラベルが付いていないことが多いので、紙片などで何らかの工夫をして一時的なラベル代わりにしてください。LPレコードの中央のラベルが剥がれかけたり、完全に剥がれたりしたら、ラベルと本体とが離ればなれにならないよう注意します。

ディスクはできる限りきれいな水ですすぎます。すすいだ後は、埃の心配のない場所で自然乾燥させます。LPレコードは、再生する前に必ず洗浄してください。すすぐだけでは落ちにくい泥などの付着物を落とすときに、LPレコードもCDも、盤面を擦ったり拭いたりしないでください。CDの場合、表のラベル面が最も重要な部分を保護する役目を果たしていますが、そのラベル面が水に弱い素材でできていることがあります。無理に乾かそうとするのも禁物です。

権利的に複製が許されているCDやDVD (例えば非営利目的のもの) は、すぐにコピーを作成すべきです。